

215-314

日本地球化学会ニュース

No. 88

1980. II. 1

- 3 D11 大分県野矢水分トンネル内湧水の化学成分と地熱のかかわり
°野田徹郎 (九大温研)
川村政和 (地調)
- 3 D12 山地地下水の化学組成の経年変化とその収支
°吉岡龍馬 (京大防災研)
高谷精二 (南九州大園)
沖村 孝 (神戸大工)
- 3 D13 網走湖の化学成分の挙動
°坂田康一, 安藤和夫 (道公害研)
- 3 D14 感潮河川における平常時および出水時の懸濁物質の挙動について
°古田正次, 大塚治子, 原田文男, 山本 甫
(愛知県公害調査センター)
- 3 D15 感潮河川における重金属元素およびリンの挙動—主として底土の巻き上げとの関連について
°大塚治子, 古田正次
(愛知県公害調査センター)
- 3 D16 河川水質変動現象解析—河川の地球化学的特徴について
糸山東一 (香川大教育)
- 3 D17 北海道の河川底質・土壌における地球化学的研究 第2報, おもな河川底質についての地質学的考察
°藤田隆男, 安藤和夫 (北海道公害防止研)
- 3 D18 沖縄本島北部河川水の化学組成
渡久山 章 (琉大理)
- 3 D19 荒川上流水域の水質
小沢竹二郎, 君島克憲, 根津豊彦
当麻喜明, °川原田 淳 (埼玉大工)
- 3 D20 含ヒ素鉱山廃水の水質挙動とその中和沈殿物の再溶解
後藤達夫 (岩手大教育)

日本学術会議第12期会員選挙について

日本学術会議中央選挙管理会

昭和55年11月には、3年に一度の日本学術会議会員選挙が行われます。

この選挙は、会員を選挙する方も、会員に選挙される方も有権者でなければなりませんので、次のことに御注意ください。

- (1) 新たに有権者としての登録を希望する方は、登

- 録用カードを早めに提出してください。
(2) 引き続き有権者の方は住所、勤務機関、勤務地等登録カード記載事項に変更があった場合は、すみやかに異動届を提出してください。

以上について不明の点がありましたら、下記にお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34
日本学術会議会員選挙管理事務局
03-403-6291

ケミカル・アブストラクツ・サービス (CAS) の全サービス (出版物等) の取扱い開始お知らせ

本会初め27学協会で組織している化学情報協会では、アメリカ化学会との協定によって、1978年からCASサービスのうち電算機可読ファイルの日本国内における流通を一手に扱い、その研究開発と普及に努めてきました。今後、1980年分からCAS全サービスの一手扱を始めることになり、従ってケミカル・アブストラクツを初め全ての印刷物も同協会を経由してご入手頂くことになります。目録等は、直接同協会にご請求下さい。なお、業務量の増大、電算機導入等の都合上、同協会は7月20日から次に移転しましたのでお知らせします。

〒113 文京区弥生2-4-16 学会センタービル内
社団法人 化学情報協会 電 03(816)3462

編集者 安藤 厚・柴田 賢
発行所 日本地球化学会
〒113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル (4F) 日本学会
事務センター内
電話 東京 03 (815) 1903

なお日本地球化学会庶務へのお問い合わせは下記へお願い致します。東京都立大学理学部化学科 石渡 良志
(庶務幹事) 〒158 東京都世田谷区深沢2-1-1
電話 東京 03(717)0111

1979年度日本地球化学会総会報告

10月2日午後1時~2時、東京工業大学において会員約100名の出席のもとに行われた。

- 会長挨拶
- 年会委員長挨拶
- 1978年度事業および決算報告、島居監事の監査結果の報告があり、これを承認した。
- 1979年度事業中間および会計中間報告が行われた。
- 1980年度事業計画および予算案を承認した。
- 1980~1981年度の役員選挙結果が報告された。
- 1982年に日本で開催される第5回年代、同位体国際会議について説明があり、共催団体として日本地球化学会が参加することが承認された。

1978年度事業報告 (一部は中間報告として No. 85 に掲載済)

1. 会員現況	正会員	賛助会員	名誉会員	計	
1978年1月	793	18	6	817名	
入 会	45	1	0	46	
退 会	34	3	2(逝去)	39	
1978年12月末	804	16	4	824	
2. 委員会等開催数					
総 会	1	幹事会	4	行 事	2
年 会	1	財 政	2	将来計画	1
例 会	2	編 集	4	極 地	3
評議員会	3	ニュース	3	環 境	3

- ニュース発行
No. 82/83, No. 84, No. 85 計20頁 1000部
- 会誌発行
G. J. Vol. 12, No. 1~3, 地球化学 Vol. 12, No. 1
- 出版
「水汚染の機構の解析」産業図書
- 学会、協会共催等
・講演会「元素の起源」黒田和夫氏 (1978/6/30)
・第15回理工学における同位元素発表会 (1978/6)
・GDP 国際シンポジウム (1978/3)

7. 例会

- 2/18 地球化学的手法による地震予知 脇田 宏氏
地球化学的手法による噴火予知 小坂丈予氏
6/10 シミュレーション鉱物学 松井義人氏
シミュレーション融体学 古井和男氏

8. 学会事務センターとの事務契約完了

1978年度決算報告

収入	予算	千円
1. 会費	5,247,529円	(5,460)
正会員	4,719,529	
学生会員	193,000	
賛助会員	285,000	
入会金	50,000	
2. 刊行物売上げ	2,167,020	(2,544)
3. 広告料	0	(50)
4. 助成金	1,020,000	(700)
5. 雑費	73,747	(50)
6. 繰越金	1,976,301	(220)
計	10,434,597	(11,004)
支出		
1. 事業費	7,018,016	(9,809)
出版費	5,503,846	(6,735)
G. J.	3,538,500	
地化	462,156	
別刷	559,110	
ニュース	179,000	
編集費	400,000	(400)
発送費	365,080	(405)
行事費	230,000	(300)
事務費	1,130,150	(1,128)
会員業務郵税	154,020	(0)
2. 管理費	818,050	(1,100)
庶務費	260,000	(300)
会議費	175,740	(300)
通信費	4,100	(50)

学会庶務に関する連絡・お問い合わせは下記へお願い致します。
東京工業大学総合理工学研究所
一國雅己 〒227 横浜市緑区長津田町 4259
電話 045-984-1111

旅 費	254,710	(300)
消耗品	76,230	(50)
雑 費	47,270	(100)
3. 積立金	500,000	(500)
次期繰越金	2,148,531	(1,291)
計	10,484,597	(11,004)

1979 年度事業中間報告

- 1) 会員現況
- | | 正会員 | 賛助会員 | 名誉会員 | 計 |
|--------------|-----|------|------|------|
| 1979 年 1 月 | 804 | 16 | 4 | 824名 |
| 入 会 | 21 | 1 | 0 | 22 |
| 退 会 | 7 | 0 | 0 | 7 |
| 除 籍 | 18 | 0 | — | 18 |
| 1979 年 9 月末日 | 800 | 17 | 4 | 821 |
- 2) 委員会等開催数
- | | | | | | |
|------|---|------|---|------|---|
| 総 会 | 1 | 幹事会 | 2 | 行 事 | 2 |
| 年 会 | 1 | 財 政 | 2 | 将来計画 | 1 |
| 例 会 | 2 | 編 集 | 4 | 極 地 | 2 |
| 評議員会 | 3 | ニュース | 2 | 環 境 | 0 |
- 3) ニュース発行
No. 86, No. 87
- 4) 会誌発行
G.J. Vol. 12, No. 4, Vol. 13, No. 1~3
地球化学 Vol. 12, No. 2, Vol. 13, No. 1
- 5) 学会, 協会共催等
・第 16 回理工学における同位元素発表会 (1979/6)
- 6) 例 会
2/10 Sea-Water-Rock Interaction
- 1) 地質学的立場から 大木靖衛氏
2) 室内実験の立場から 酒井 均氏
- 6/9 1) 放射能と地球環境 特に In Situ 測定
について 阪上正信氏
2) 炭酸塩堆積物と水の化学的環境 微量
元素と結晶形 北野 康氏
- 7) 1980~1981 年度役員選挙
8) 1979 年度名簿発行
9) 名誉会員推薦に関する内規作成
10) 会費滞納者に対する除籍の手続きを作成

1979 年度会計中間報告

収 入	千円	予算 千円
1. 会 費	4,175	(5,286)
2. 刊行物売上げ	1,531	(3,814)
3. 広告料	0	(100)
4. 助成金	0	(1,200)

5. 雑収入	0	(50)
6. 繰越金	2,148	(1,450)
計	7,854	(11,900)
支 出		
1. 事業費	5,283	(9,452)
1-1 出版費	3,707	(7,468)
会誌印刷	3,064	(6,300)
編集費	300	(500)
発送費	343	(668)
1-2 行事費	244	(300)
1-3 名簿印刷	450	(500)
1-4 事務委託費	720	(1,184)
1-5 会員業務郵税	162	(0)
2. 管理費	372	(1,205)
2-1 庶務費	250	(330)
2-2 会議費	70	(300)
2-3 通信費	23	(55)
2-4 旅 費	0	(400)
2-5 消耗品	0	(50)
2-6 雑 費	29	(100)
3. 予備費	297	(1,243)
計	5,952	(11,900)

1980 年度事業計画案

- 総 会 1
年 会 1
例 会 2
評議員会 3
幹事会 3
会誌発行 G. J. 6, 地球化学 2
ニュース 3
共催等
・第 17 回理工学における同位元素研究発表会
・SIL (国際理論応用陸水会談)

1980 年度予算案

収 入	
1. 会 費	5,336千円
2. 刊行物売上	3,986
3. 広告料	100
4. 助成金	1,400
5. 雑収入	50
6. 繰越金	1,243
計	12,115

1) 正会員	810×6千円=4,867千円
学生会員	54×4 = 216
賛助会員	16×15 = 240
入会金	20×1 = 20

支 出

1. 事業費	9,646千円
1-1 出版費	7,946
会誌印刷	6,678
編集費	600
発送費	668
1-2 行事費	300
1-3 名簿積立	250
1-4 事務委託費	1,000
1-5 会員業務郵税	150
2. 管理費	1,305
2-1 庶務費	400
2-2 会議費	300
2-3 通信費	55
2-4 旅 費	400
2-5 消耗品	50
2-6 予備費	1,164
計	12,115

日本地球化学会 1980 (1/1) ~1981 (12/31) 年度役員選挙結果

1979 年 9 月 30 日 (日), 東大・工学部・8 号館会議室にて開票を行い, 投票総数 206, 無効投票 1 を確認の上, 下記の結果を得た。

記

- 会 長: 木越邦彦 次点 北野 康, 半谷高久
副会長: 北野 康 次点 木越邦彦, 増田彰正
監 事: 鳥居鉄也 次点 西村雅吉
評議員: アイウエオ順
北海道: 八木健三 次点 室住正世
東 北: 山岡一雄 次点 田口一雄
関 東: 石渡良志, 一国雅己, 佐藤和郎, 柴田賢, 杉村行勇, 田中重男, 長沢 宏, 不破敬一郎, 本
田雅健, 松尾禎士, 松本英二, 馬淵久夫, 綿技邦
彦 次点 安藤 厚
中 部: 金森 悟, 中井信之, 坂野昇平 次点 寺
田喜久雄
近 畿: 桑本 融 次点 西村 進
中国, 四国: 酒井 均 次点 松井義人
九 州: 鎌田政明, 樽谷俊和 次点 兼島 清
以上 22 名 (小嶋 稔)

評議員懇談会

日: 1979 年 6 月 9 日 (土) 所: 金沢市警察会館
出席者: 半谷会長, 北野副会長, 綿技, 松尾, 半田, 坂野, 石渡, 小椋各評議員, 鳥居監事, 本田雅健オブザーバー。

報 告

1. SCJ 関係 (本田オブザーバーより報告)

地球化学宇宙化学研究連絡会第 11 期 (1978-1980).
会長: 本田 委員 12 名 幹事: 八木, 松尾, 一
国, 清水.
隕石学宇宙化学小委員会 委員長: 本田, 委員: 武
田, 永田, 矢内, 長谷川, 増田, 八木.
固体地球科学研究連絡小委員会 (仮) “惑星の科学”
の研究 第 4 部附置を希望.
特定研究「太陽系の進化と惑星環境の研究」の計画
について.
その他. IGC-IUGC (1984) 日本開催の件を地質研
連で検討. 「高レベル放射性物質廃棄物の処分につ
いて」国際学術連合でとりあげる.

2. 各委員会報告

庶務: 1) 中国 National Geological Library およ
びソ連 National Public Library for Sci. and
Technol. より交換用書の申し入れがあり, 幹事
会で検討の結果, それぞれ “地球化学”, “Geo-
chimiya” を交換することにした.
2) Copyright Clearance Center Inc. より U.S.
Department of Commerce と契約した Geo-
chem. J. のコピー権を変更し新しい契約をした
いと申し入れがあり, 幹事会で経緯審議.
3) IGC-IUGS 日本開催についてのアンケートが
来た (5 月 20 日締切り).
4) 事務センター役員と半谷, 石渡, 綿技との間で事
務遂行の円滑化について話し合いがあった.
5) G. J. の購読価格表示の証正につき幹事会で検討
し, 1977 年の総会で決定した価格 1 冊 2300 円に国
内外価格を統一して訂正することにした.
編集: G. J. Vol. 13, No. 1, 印刷完了; No. 2, 初
稿; No. 3, 印刷準備中; No. 4, 受理論文決定.
財政: 1979 年度文部省学術刊行物助成金として 148
万円が認められた.
行事: 6 月の例会に 34 名が出席した.
ニュース: No. 86, 選挙公示, 年会案内を掲載; No.
87, 年会のプログラム, 8 月上旬発行予定.
選挙管理: 投票締切りを 9 月 30 日から 9 月 25 日に変

更することを決めた。

議 事

1. 入退会

入会者 1 名, 退会者 3 名を承認した。入会: 富永健 (東大) 退会: 渡辺百江, 矢島淳吉, 中井敏夫。

2. 会費滞納者の除籍 (または除名) 手続きについて

1) 3 年間の会費滞納者 (20 名) について検討し, 再度評議員が分担して説得することとし, 6 月末日までに納入されない場合は除籍 (または除名) することとした。

2) 2 年間滞納者 (30 名) の除籍 (または除名) については次回評議員会で審議することとした。

3. 年会関係

松尾年会実行委員長より計画および準備状況について詳しい報告があり, 今後特に検討すべき事項として次の 3 つがあげられた。

1. Presidential Address
2. 他学会との連携について
3. Registration fee について

4. 予算案

1980 年度予算案を承認した。

5. 名誉会員の推薦基準 (細則) について検討し, 次回の評議員会で細則を決定することとなった。

6. 1980 年度の年会の開催の候補地として四国, 九州 (鹿児島), 神戸があげられた。

評議員会報告

日: 1979 年 9 月 30 日 (日) 所: 赤門学士会館
出席者: 半谷会長, 地野副会長, 増田, 金森, 岡部, 中井, 市川, 小嶋, 柴田, 坂野, 松尾, 綿拔, 木越, 安藤, 佐藤, 石渡, 小椋各評議員, 鳥居監事, 本田雅徳オブザーバー。

前回議事録について

前回評議員会 (6 月 9 日) が定数不足のため評議員懇談会であることを確認の上, 評議員懇談会決定事項を評議員会決定事項として追認した。

報 告

1. SCJ 関係

第 5 回年代同位体国際会議 (1982 年)

代表者 本田 委員 小嶋, 松尾, 柴田, 木越, 30 名程度の実行委員会を組織する予定。

IAGC 関係

第 4 回 Water-Rock Interaction 会議, 1983 年日本で開催されることが決った (世話人: 酒井, 北野, 大木, 関)

2. 各委員会報告

庶務: 1) 会費 3 年滞納者を 8 月 27 日付で除籍した。

2) 評議員会の議事, 名誉会員推薦の内規および会費 2 年間滞納者の問題につき幹事会で検討した。

3) 第 16 回秩父宮記念学術賞候補の推薦依頼があった (締切り 10 月 13 日)。

4) 昭和 54 年度沖縄研究奨励賞候補の推薦依頼があった (締切り 10 月末日)。

財政: 1978 年度決算をした。

編集: G. J. Vol. 13, No. 3, 配送; No. 4, 再校; No. 5, 初校; No. 6, 来年発行予定。地球化学 Vol. 13, No. 2, 原稿募集中。

ニュース: No. 86 (4 頁), No. 87 (10 頁) 年内発行の予定。ニュース担当委員に佐藤和郎氏を追加。

行事: 12 月例会内容は未定。

将来計画: 地球科学科のある大学の現状を調査した。

極地: 10 月 9 日~17 日南極湖沼研究集会在開かれる。

環境: SCOPE のワーキンググループがモスクワで開かれる予定。

年会実行委員会: 講演数 209, 4 会場, 3 日間の予定。

議 事

1. 会員移動

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1979 年 6 月	802	16	4	822
入 会	20	1	0	21
退 会	4	0	0	4
除 籍	18	0	0	18
1979 年 9 月	800	17	4	821

2. 1980~1981 年度役員選挙結果報告

小嶋役員選挙管理委員長より報告があり, これを確認した (結果は別項に掲載)。

3. 1979 年総会次第案を承認した。

4. 2 年間に滞納者に対する取扱い。

10 月末日までに納入するよう庶務委員から本人に手紙を出した上で, 滞納者を除籍する。また国外の滞納者 5 名の除籍を承認した。

5. 名誉会員推薦に関する内規

原案 (別項参照) を承認した。

6. 1980 年度年会について

鹿児島大学 (責任者 鎌田政明氏) に決定した。

7. 12 月例会

12 月 8 日に予定の例会について, 行事委員が庶務委員と協議の上決定することを承認した。

8. その他

1) 第 17 回理工学における同位元素研究発表会の共催を承認した。また運営委員として石渡良志氏に依頼した。

2) 日本地球化学会が第 5 回年代同位体国際会議 (1982 年) の共催団体となることを総会に提案することを承認した。

1979 年地球化学会年会報告

同年会は昨年 10 月 1 日 (月) より 3 日 (水) まで東京工業大学大岡山キャンパスにて開催された。

若干の取り消しがあったが, 4 会場であわせて 205 件 (うち一般講演 152 件・特別セッションでの講演 53 件) の講演がおこなわれ, 活発な意見交換があった。

なお, 参加状況は下記に示す通りである。

・参加者	424 名 + α
・要旨集	印刷数 600 部
	販売数 485 部
	寄 贈 11 部
	残 部 104 部
・懇親会	出席者 142 名

(大隅多加志)

名誉会員推薦に関する内規 (1979 年 9 月 30 日評議員会承認)

第 1 条: 名誉会員候補者は, 評議員若干名による推薦文を添えて推薦された者の中から, 評議員会における無記名投票によって出席者の 2/3 以上の賛成を得て決定される。

第 2 条: 名誉会員候補者は評議員会によって総会に提案され, 承認を受け, 名誉会員となる。名誉会員には名誉会員証を贈呈する。

第 3 条: 名誉会員は原則として 10 名を越えない。

第 4 条: 本内規は 1979 年 9 月 30 日より発効する。

会費の請求および滞納者に関する処置

1979 年 2 月 10 日評議員会で次の通り了承された。

請求時期	内容・処置
前年 11 月末	第 1 回請求
当年 2 月末	第 2 回請求, 赤紙*
4 月 1 日	学会誌, ニュース, 例会通知の発送停止
5 月末	第 3 回請求, 赤紙*
11 月末	第 4 回請求, 赤紙*

翌年 2 月末 第 5 回請求 赤紙*

6 月はじめ 滞納者リストにもとずき除籍**

* 赤紙には①会費切れであること②会費が当年 3 月末までに納入されないと学会誌, ニュース, 例会通知の発送が停止されること③翌年 3 月末までに納入されないと除籍されることを明記する。

**事務所 (学会センター) から庶務に送られる除籍対象者リストは 6 月の評議員会に提出され, 除籍が決定される。

半谷高久会員, 地球化学研究協会学術賞 (三宅賞) を受賞

1979 年度地球化学研究協会学術賞は, 半谷高久会員「人間活動による物質循環に関する地球化学的研究」に授与された。

本会名誉会員 柴田雄次氏 (東京大学名誉教授 名古屋大学名誉教授 東京都立大学名誉教授) は昭和 55 年 1 月 28 日に逝去されました。謹しんで哀悼の意を表します。
なお本会より生花弔辞を献呈いたしました。

お知らせ

1980 年度日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会 共催 日本化学会

期日 1980 年 10 月 6 日 (月) ~ 10 月 8 日 (水)

会場 鹿児島大学教養部 (鹿児島市郡元 1-21-30)

内容 課題講演, 一般講演および特別講演

課題講演は「九州とくに南九州の火山活動の地球化学」「古文化財, 考古学的試料の化学」「生体と重金属」「惑星化学」「地殻化学」「炭酸塩の地球化学」などが予定されています。詳細は次号の地球化学会ニュースを御覧下さい。課題講演には何人かのコンビーナーをお願いしており, 指名講演を中心にくふうがはかれる予定です。

講演申込締切 6 月 28 日 (土)

講演要旨提出締切 8 月 16 日 (土) 申込受付次第, オフセット用原稿用紙をお送り致します。

懇親会 10 月 7 日 (火) 18 時から, 林田ホテルにて。

会費 4,000 円 (学生 2,000 円)

参加, 要旨集および懇親会申込締切 9 月 6 日 (土)

以上の申込みおよび下記の宿泊・航空券の申込みには必ず所定の申込用紙を用いて下さい。これらの用紙は本ニュース (次号) に添付予定のものを利用するか, または下記あて御請求下さい。参加費は不要です。要旨集代金 2,800 円 (学生 2,000 円) (郵送料含む), 懇親

会費は上記申込期日までに、郵便振替にて御送金下さい (口座番号: 鹿児島 10519, 加入者名: 地球化学会年会)。要旨集代金は予約申込のないときは 3,300 円となります。

申込先 〒890 鹿児島市郡元1-21-35 鹿児島大学理学部化学科内, 1980 年度日本地球化学会年会実行委員会 鎌田政明 (もしくは米原範伸) (電話: 0992-54-7141, 内線 4262 または 4261)

宿泊および航空券について

近畿日本ツーリスト (株) 鹿児島営業所 (〒892 鹿児島市西千石町 11-24 電話: 0992-23-3201, 地球化学担当奈良迫) でお世話致します。前記の申込用紙で上記営業所に直接御申込み下さい。10 月は観光シーズンですのなるべく早目をお願いします。本年会に参加してのち、九大 (福岡) での日本分析化学会、あるいは他の学会に出席される場合の航空券についてもできるだけ便宜をはかるとのことです。

(鎌田 政明)

お知らせ

国際火山学会議 「弧状列島の火山活動」

(IAVCEI SYMPOSIUM ON ARC VOLCANISM)

1981 年に日本で開催される表記の会議について概略次のような内容の First Circular が出来ております。

主催 日本火山学会および International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior

日程 1981 年 8 月 28 日～8 月 30 日 野外巡検 (北海道, 地熱地帯)

8 月 31 日～9 月 5 日 会議 (東京, 箱根)

9 月 6 日～9 月 9 日 野外巡検 (九州, 伊豆大島, 浅間, 地熱地帯)

トピックス Arc Volcanism とくに島弧における火山活動および社会的, 経済的視点から見た火山活動 Tentative Scientific Program—Arc Volcanism—

- §1. Physics and chemistry of arc magma
Origin of calc-alkali andesite and island are tholeiite
Felsic volcanism, high level plutonism and caldera formation
Dynamic behavior of magma
Chemistry of silicate melt containing volatiles

- §2. Arc volcanism in time and space

Forearc and backarc volcanisms

Life histories of volcanoes and volcanic belts

Spatial distribution, production rate and energy

§3. Geothermal activities

Energetic aspects of volcanic activities

Geothermal manifestations

§4. Prediction, hazards and environmental aspects of volcanic activities

§5. Open—topics to be selected from abstracts submitted

Workshops: Magma and geothermal energy utilization, Prediction and hazards of volcanic eruptions, Remote sensing

問合わせ, サークュラー, 予備登録用紙請求先:

〒113 東京都文京区弥生 1 丁目 1-1 東京大学地震研究所 下鶴大輔または荒牧重雄

・Second Circular および Registration Form は 1980 年 5 月 15 日までに予備登録された方に送付されます。

学会カレンダー 1980 (国内)

月	期間	学会名	開催地
4	1~3	日本地質学会 87 年会	松江市県民会館 島根大学教養部
4	1~4	日本化学会 41 春季年会	東大阪
5	12~15	日本火山学会春季大会	学習院大学
6/30~		理工学における同位元	国立教育会館
7/2		素研究発表会	

編集者 佐藤 和 郎

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生 2-4-16

学会センタービル (4F) 日本学会

事務センター内

電話 東京 03 (815) 1903

振込先銀行 三井銀行上野広小路支店

口座番号 9-55247

日本地球化学会ニュース

No. 89

1980. V. 20

1980年度 日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会 共催 日本化学会

期日 10月6日(月), 7日(火), 8日(水)

会場 鹿児島大学教養部(鹿児島市郡元1-21-30)

交通 鹿児島本線西鹿児島駅表口より市営バス鶴ヶ崎行(10番線)または三和町行(11番線)にて法文学部前下車, もしくは市電郡元行にて工学部前下車。鹿児島空港より連絡バスにて西鹿児島駅前下車。市営バスあるいは市電を利用。西鹿児島駅からいづれも約10分, タクシーならば約5分。

内容 一般講演、課題講演および特別講演。課題講演は「古文化財の化学」「天然水中の微量有機態金属元素の生物地球化学」「惑星化学—惑星の集積と初期過程の化学」「地殻化学—とくに地震予知に関連した—」「炭酸塩の地球化学」「九州, とくに南九州の火山活動の地球化学」が計画され, コンビナーには馬淵久夫, 不破敬一郎, 長沢 宏, 小沼直樹, 脇田 宏, 杉崎隆一, 北野 康, 小坂丈子, 鎌田政明の諸氏が予定されており, 各課題別に討論形式にくふうがこころみられます。特別講演としては「鹿児島湾の地質学的環境(鹿児島大, 早坂祥三)」「生物からみた環境(鹿児島大, 柿沼好子)」「桜島火山の活動の地球物理学的研究(京大防災研桜島火山観測所, 加茂幸介)」「霧島火山の活動の地球物理学的研究(東大震研霧島火山観測所, 渡部暉彦)」がお願いしてあります。

講演申込締切 6月28日(土)

講演要旨提出締切 8月16日(土)

申込受付次第, オフセット用原稿用紙をお送り致します。

懇親会 10月7日(火)18時から林田ホテル(鹿児島市東千石町12-22, 電話0992-24-4111)にて。

会費4,000円(学生2,000円)

参加, 要旨集および懇親会申込締切 9月6日(土)

以上の申込みおよび下記宿泊・航空券の申込みには

必ず別送の申込用紙(多数必要な方はコピーでも可)を用いて下さい。参加費は不要です。要旨集代金2,800円(学生2,000円)(郵送料含)、懇親会費は上記申込期日までに、郵便振替にて御送金下さい(口座番号: 鹿児島 10519, 加入者名: 地球化学会年会)。別送の振替用紙を御使用になれば払込料金は不要です。要旨集代金は予約申込みのないときは3,300円となります。

申込先 〒890鹿児島市郡元1-21-35鹿児島大学理学部化学科内1980年度日本地球化学会年会実行委員会 鎌田政明 (もしくは米原範伸) (電話: 0992-54-7141, 内線4262または4261)

宿泊および航空券について

近畿日本ツーリスト(株)鹿児島営業所(〒892鹿児島市西千石町11-24, 電話: 0992-23-3201, 地球化学会年会担当奈良迫)でお世話いたします。できるだけ便宜をはかるとのことですので, 別送御案内を御参照のうえ上記営業所へ直接御申込み下さい。

お知らせ

環境科学研究報告集「大気から海洋への汚染物質の移動」の配付について

文部省科学研究費環境科学特別研究の「大気から海洋への汚染物質の移動」検討班では, 本年2月, 上記印刷物(75ページ)を発行しました。まだ残部がありますので, 配付ご希望の方は下記へ切手120円同封の上お申込み下さい。

〒041 函館市港町3-1-1

北海道大学水産学部分析化学研究室 南部

お知らせ

山形大学教養部教官公募

職名・人員: 教授または助教授を原則とし、1名

所属学科目: 自然環境論

専門分野等: 特定の専門分野(分野の種類を問わない)

から自然環境の自然科学的研究を進め、自然環境論に属する講義を担当。なお、現在は専任者はいないが、自然分野の教官の協力により、上記学科目に属する講義として総合科目「水」を開講している。

着任時期：昭和55年10月以降翌年までの間のなるべく早い時期

応募資格：博士の学位をもつ者。大学・研究所等で教育ならびに研究の経歴のある者が望ましい。

提出書類：履歴書、研究業績目録、主要論文別刷、健康診断書、現在の研究内容および着任後の教育・研究についての考え。

提出期限：昭和55年8月20日(木)必着

提出方法：封筒に「自然環境論教官公募書類在中」と明記し、書留郵便とすること。

提出先：〒990山形市小白川町1-4-12

山形大学教養部長 森 芳三

問合せ先：山形大学教養部物理学教室 山辺敏之

電話0236-31-1421 内線2763

お知らせ

国際火山学会議「弧状列島の火山活動」の予備登録

1981年に日本で開催される上記国際会議のFirst circular および予備登録用紙をご希望の方は下記宛にご請求下さい。

〒113 東京都文京区弥生1丁目1-1

東京大学地震研究所 荒牧重雄

会議の内容等は地球化学会ニュース88号をご覧下さい。なお、その中でお知らせした予備登録締切り日の5月15日は取消しとなり、今後当分の間受付けます。

編集者 佐藤和郎

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル(4F) 日本学会

事務センター内

電話 東京 03(815)1903

振込先銀行 三井銀行上野広小路支店

口座番号 9-55247

日本地球化学会ニュース

No. 90

1980. VIII. 1

1980年度 日本地球化学会年云

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

日時 1980年10月6日(月)～10月8日(水)

会場 鹿児島大学教養部

鹿児島市郡元1-21-30

(連絡先 鹿児島大学理学部化学科

鹿児島市郡元1-21-35 鎌田政明

0992-54-7141 内線4262)

	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17
6 日 (月)	A		南九州の火山活動の 地球化学				特別講演 (3 題)		一般講演	
	B		一 般 講 演				一 般 講 演			
	C		一 般 講 演				一 般 講 演			
	D						一 般 講 演			
7 日 (火)	A		一 般 講 演				総会	一 般 講 演		
	B		一 般 講 演				古文化財の化学			
	C		一 般 講 演				一般講演			
	D		一 般 講 演				一 般 講 演			
8 日 (水)	A		炭酸塩の 地球化学				炭酸塩の地球化学(続)			
	B		一般講演				惑 星 化 学			
	C		地殻化学				地殻化学(続)			
	D		一般講演				特別 講演	微量有機態金属元素 の生物地球化学		

懇親会：7日(火)18時から林田ホテル(電話 0992-24-4111)にて

講演時間：一般講演は討論を含めて15分を予定としています。課題講演は討論を含めて20分を予定。講演多数のため、時間がやや短かめとなりました。時間厳守に御協力下さい。

第1日 10月6日(月)

A会場

〔課題講演〕〔九州、とくに南九州の火山活動の地球化学〕コンピーナー 小坂文予・鎌田政明

(9:00~10:00) 座長 小沢竹二郎

1 A 01 スマトラ北部と南九州の火山および火山岩 西村 進(京大理)

1 A 02 九重硫黄山からの放出火山ガスとその挙動 °野田徹郎・江原幸雄(九大温研・九大工)

1 A 03 噴出直後の桜島降下軽石に見られるラジウムーラドン非平衡とマグマのラドン放出 °佐藤和郎・佐藤 純(東大震研・明大工)
(10:00~11:20) 座長 松尾禎士

1 A 04 桜島における火山ガス成分の変化と活動 小坂文予・°平林順一・小沢竹二郎
(東工大工・埼玉大工)

1 A 05 桜島火山、持木足投海岸温泉ガスの微量成分の消長と火山活動 °大西富雄・鎌田政明
(鹿児島大教養・鹿児島大理)

1 A 06 鹿児島湾湾奥部海底火山噴気の噴出率の推定(2) °杉浦吉雄・鎌田政明・根建洋子
(鹿児島大教養・鹿児島大理)

1 A 07 硫黄同位体比よりみたさつま硫黄島の火山活動 上田 晃・°酒井 均・松葉谷 治
(東北大理・岡山大温研・秋田大鉱山)
— 総合討論 —

〔特別講演〕 (13:00~13:40)

座長 小坂文予

〔桜島火山の活動の地球物理学的研究〕

加茂幸介(京大防災研)

〔特別講演〕 (13:45~14:25)

座長 浦島幸世

〔鹿児島湾の地質学的研究〕

早坂祥三(鹿児島大理)

〔特別講演〕 (14:30~15:10)

座長 鎌田政明

〔霧島火山の活動の地球物理学的研究〕

渡部暉彦(東大震研)

一般講演 (15:15~16:00)

座長 小山睦夫

1 A 08 Nd—Sr 同位体からみた日本列島火山岩の成因について 能田 成(京都産業大)

1 A 09 三国山流紋岩類のRb—Sr 年令 関 達也(岡山理大理)

1 A 10 火山噴出物の化学組成 °増井暁夫・富永 建・中村裕二
脇田 宏・荒牧重雄(東大理・東大震研)

(16:00~16:30) 座長 小坂文予

1 A 11 第四記テフラ中火山ガラスの化学組成について °山路 進・鈴木正章・鈴木和博
遠藤邦彦・二宮修治・大沢眞澄
(東学大教育・日大文理・名大理)

1 A 12 放射化分析による火山灰の同定 °小山睦夫・池田 隆・横山卓雄
(京大原子炉・京大教養・京大工)

(16:30~17:00) 座長 鎌田政明

1 A 13 ガラバゴス諸島の火成岩中の希土類元素について °清水 洋・増田彰正・増井直人
(神戸大理・東理大理)

1 A 14 火山性天然硫黄のセレン・テルルおよびヒ素含有量 °蟻川芳子・平井昭司・小沢竹二郎
(日本女子大・武蔵工大原研・埼玉大工)

B会場

一般講演 (9:00~10:00) 座長 山懸 登

1 B 01 ドンファン池周辺の表層掘削コア °村山治太・綿抜邦彦・鳥居鉄也
(横浜国大教育・東大教養・千葉工大工)

1 B 02 南極ドライバレー地域の湖沼における微量金属の分布 °増田宣泰・西村雅吉・鳥居鉄也
(北大水産・千葉工大工)

1 B 03 ドライバレー周辺試料の天然および人工放射性核種 °小村和久・中西 孝・鳥居鉄也
(金沢大理・千葉工大工)

1 B 04 南極の内陸塩湖とその塩の起源 °鳥居鉄也・山懸 登・中谷 周
(千葉工大工・公衆衛生院・弘前大理)

(10:00~11:00) 座長 綿抜邦彦

1 B 05 南極ドライバレー周辺の窒素同位体組成 °和田英太郎・柴田励子・鳥居鉄也
(三菱化成生命研・千葉工大工)

1 B 06 MSSTS コア解析からみたマクマード地域の古環境

°中谷 周・中尾欣四郎

吉田栄夫・鳥居鉄也

(弘前大理・北大理・

極地研・千葉工大工)

1 B 07 南極・ドライバレー地域の土壌中の脂肪酸 動 — °松本源喜・鳥居鉄也・半谷高久
(都立大理・千葉工大工)

1 B 08 やまと Diogenite 中の希土類元素 °増田彰正・清水 洋・中村 昇(神戸大理)
(11:00~12:00) 座長 糸山東一

1 B 09 蛇紋岩からの六価クロムの溶出 °日野隆信・中西成子(千葉県衛研)

1 B 10 大量揚水による地下水水質の変化について 佐藤 修(新潟大災害研)

1 B 11 鹿児島市地下水の塩水化 °福永永康・勝 啓作・岩元 隆・児島良和
・永田実秋 (鹿児島市)

1 B 12 地すべり地帯の地下水の化学成分 — 長崎県 平山地区 — 飯盛和代・°飯盛喜代春
(佐賀短大・佐賀大工)

(13:00~13:45) 座長 吉岡小夜子

1 B 13 地下水中の希土類元素の存在度・およびその存在度パターンについて

°山本博史・増田彰正(神戸大理)

1 B 14 六甲山地周辺地域地下水の水質 °日下 譲・辻 治雄・石田桂子・
藤本雄三・榎井 要(甲南大理)

1 B 15 濃尾平野の地下水の酸素同位体組成と地盤沈下 °加藤喜久雄・杉浦 孜(名大水圏研・愛教大)
(13:45~14:30) 座長 後藤達夫

1 B 16 異なる土壌型の土壌を流れる地中水組成 渡辺栄次(京大農)

1 B 17 関東ロームの酸および塩の水溶液による成分の溶出 — 自然流下の速度および溶出成分
(その1) 大森禎子(東邦大理)

1 B 18 牟礼林地試験施設における都市下水二次処理水の陸地還元と地下水水質 水田 徹・天田高白・°糸山東一
(四国地建・筑波大・香川大教育)

(14:30~15:15) 座長 豊田恵聖

1 B 19 海岸から発生する硫化水素の量および同位体比 辻 康・°八耳俊文・中井信之
(名大理)

1 B 20 連続航走によって観測された三河湾奥部の有機物の挙動 °佐野方昂・山本 甫・荒川幸夫
(愛知公害センター)

1 B 21 茨城県東海村沿岸水中の有機炭素 °伏見克彦・鷲 猛・鈴木 款(気象研・気象大)
(15:15~16:00) 座長 乗木新一郎

1 B 22 河川水 — 海水境界域における重金属の動態 (I) — 粒子態および溶存態重金属の分布と挙

動 — °本田克久・安藤 浩・立川 涼
(愛媛大農)

1 B 23 河川水 — 海水境界域における重金属の動態 (II) — 懸濁粒子の形態と重金属量との関係 — °本田克久・安藤 浩・立川 涼
(愛媛大農)

1 B 24 二酸化炭素の大気 — 海洋間の交換 °猿橋勝子・三宅泰雄・杉村行勇・金沢照子
・川野田実夫(地化協・気象研・大分大)

(16:00~17:00) 座長 野崎義行

1 B 25 海洋における炭酸物質の分布と挙動 °池上 尚・金森 悟・北野 康
(名大水圏研)

1 B 26 海水中の銅の極微量分析 °佐藤智信・金森 悟・北野 康(名大水圏研)

1 B 27 太平洋海水中的のウラン含量およびウラン同位体比 °杉村行勇・鈴木 款・前田 勝
(気象研・東水大)

1 B 28 海水中的のウランの溶存状態と自共沈による捕集 °藤永太一郎・桑本 融・十山睦夫・
岡崎 敏・中山英一郎・堀 智孝・
所 裕之・杉山雅人・増田 薫・
一色健司 (京大理)

C会場

一般講演 (9:00~10:15) 座長 猿橋勝子

1 C 01 重力の場における熱平衡について 木越邦彦(学習院大理)

1 C 02 成層圏大気のグラフサンプリング °木島宣明・本田秀之・伊藤富造・酒井 均
(岡山大温研・東大宇宙研)

1 C 03 森林大気中のモノテルペン類の測定 °安部喜也・横内陽子・藤井敏博・岡庭光重
(国立公害研・東邦大理)

1 C 04 大気中の水銀の挙動：浮遊粉じんとの関係 中川良三(千葉大理)

1 C 05 海洋上大気中の陸起源物質 角皆静男・°近藤忠裕・倉田隆喜(北大水産)
(10:15~11:15) 座長 安部喜也

1 C 06 ラドン・ラドン娘核種および⁷Beより推定される冬季モンスーンによる降雪中のエアロゾルの輸送過程 °倉田隆喜・角皆静男
(北大水産)

1 C 07 雨水の酸素含量について 三宅泰雄・°桜井澄子・猿橋勝子(地化協・気象研)

1 C 08 東京都の大気・降水中の銅・第3報 °信楽義夫・半谷高久・杉村行勇

- (都立大理・気象研)
- 1 C 09 弘前における降水の化学成分
中谷 周 (弘前大理)
- (11:15~12:00) 座長 大西富雄
- 1 C 10 多摩川水系における鉛分布 °平尾良光・島 一男・木村 幹 (青山学院大理工)
- 1 C 11 阿蘇火山を水源流域とする熊本県白川の弗素、塩素含有量 °植木 肇・三浦範子・太田原幸人 (熊本県衛研・熊本女子大)
- 1 C 12 熊本県下河川水の化学成分とその特徴
植木 肇 (熊本県衛研)
- (13:00~14:00) 座長 渡久山 章
- 1 C 13 全国主要河川中のブルトニウム含量
°廣瀬勝己・杉村行勇 (気象研)
- 1 C 14 荒川上流河川の水質 (その二) °小沢竹二郎・川原田 淳・花摘哲也・当麻喜明・君島克憲 (埼玉大工・日本環境衛生センター)
- 1 C 15 蛇尾川 (栃木県) の水質 °平山光衛・小沢竹二郎・君島克憲・当麻喜明・根津豊彦・小椋英明 (宇都宮大教育・埼玉大工・日本環境衛生センター・千葉大教育)
- 1 C 16 感湖河川の出水時におけるリン、重金属元素の移送形態 °大塚治子・古田正次 (愛知県公害調査センター)
- (14:00~15:00) 座長 平山光衛
- 1 C 17 沖縄本島の河川を通して運ばれる土砂について
渡久山 章 (琉球大理)
- 1 C 18 琵琶湖およびその周辺河川水中のセレンの分布 °平木敏三・兼村郁雄・黄 漢國・西川泰治・重松恒信 (近畿大理工・教養)
- 1 C 19 河川水質自動観測地点におけるリンの流下負荷の算定及び予測方法 古田正次 (愛知県公害調査センター)
- 1 C 20 河川水経路のT-Nの自動分析について °四ツ永道史・田中健次郎 (鹿児島県公害防止協会)
- (15:00~16:00) 座長 半田暢彦
- 1 C 21 河川の流下にもなう水銀含有量の変化 °坂元隼雄・鎌田政明・家村伸一 (鹿児島大理)
- 1 C 22 人間の生活圏における生物地球化学的試料中の金属元素の分布 (1) 高梁川水系での河川浮遊物及びダム、河口での沈殿物中の21種の金属元素量について °寺岡久之・小林 純・小川道博 (岡山大農生研)
- 1 C 23 人間の生活圏における生物地球化学的試料中の金属元素の分布 (2) 高梁川流域での雨水、

- 降下煤塵中の25種の金属元素量について °寺岡久之・小林 純 (岡山大農生研)
- 1 C 24 うなぎ池の栄養塩と植物プランクトンの現在量 °市川敏弘・鎌田政明・坂元隼雄 (鹿児島大理)
- (16:00~16:45) 座長 西川泰治
- 1 C 25 湖水における有機物組成の季節変化、I. 懸濁態有機物組成 °浜 健夫・半田暢彦 (名大水圏研)
- 1 C 26 湖水における有機物組成の季節変化、II. 溶解態有機物組成 °浜 健夫・半田暢彦 (名大水圏研)
- 1 C 27 酸性河川の水質予測、第1報 °後藤達夫・梅津芳生・浅部喜幸 (岩手大工)
- D会場
- 一般講演 (13:00~13:45) 座長 樽谷俊和
- 1 D 01 アルミン酸イオンの重合に対するケイ酸の影響 °和田信一郎・和田光史 (九大農)
- 1 D 02 溶液中でのカオリン鉱物間の転移 °都築芳郎・川辺岩夫 (愛媛大理)
- 1 D 03 ペントナイト層中に存在するノジュールについて (続報) °入江敏勝・角張 信 (山形大理)
- (13:45~14:30) 座長 入江敏勝
- 1 D 04 粘土鉱物による重金属の吸着に及ぼす有機物の影響 °荻原俊夫・小平 潔 (足利工大)
- 1 D 05 マリアナ海溝東方沖海山噴出物の変質について °葉袋佳孝・富永 健・中村裕二・脇田 宏 (東大理)
- 1 D 06 泥質岩中の硫黄の形態 粕 武 (地調)
- (14:30~15:00) 座長 森岡正名
- 1 D 07 小坂 dacites 中の“アラコルニウム” °坂本 浩・浜島靖典・清水隆夫・岡田喜久雄 (金沢大理)
- 1 D 08 単斜輝石の希土類元素の固相—液相分配係数とFe/Fe+Mg比の相関について 中村 昇 (神戸大理)
- (15:00~15:30) 座長 増田彰正
- 1 D 09 FeSiO_3 — MgSiO_3 — Al_2O_3 系における斜方輝石—ザクロ石間の元素分配平衡 川壽智佑 (高知大教育)
- 1 D 10 固体表面上のアルミニウムとフッ化物イオンとの表面錯形成 鶴見 実 (東工大総合理工)
- (15:30~16:00) 座長 都築芳郎
- 1 D 11 一ノ目湖レゾライト、構成鉱物中のFe, Ni, Co, Mn, REE 等 増田康之 (阪府大・総合)

- 1 D 12 かんらん石中の2価陽イオンの拡散
森岡正名 (東大R I センター)

第2日 10月7日 (火)

A会場

- 一般講演 (9:00~10:00) 座長 佐藤和郎
- 2 A 01 御岳火山の1979年火山灰中の硫黄化合物の同位体組成 °水谷義彦・日下部 実・米谷正宏 (富山大理)
- 2 A 02 1979年御岳山噴火放出物および火山ガスの地球化学的研究 杉崎隆一・杉浦 孜・水谷義彦・日下部 実 (名大理・愛教大・富山大理)
- 2 A 03 1979年御岳火山灰と、周辺水系におよぼした汚染について °中井信之・金 奎漢・山本典保・牛田洋子 (名大理)
- 2 A 04 木曾御岳火山1979~80年の活動の噴出物の成分と活動状態 °小沢丈予・平林順一・小沢竹二郎・君島克憲・酒井 均 (東工大工・埼玉大工・岡山大温研)
- (10:00~10:45) 座長 野田徹郎
- 2 A 05 バルスハイトアナライザーによる桜島火山灰中の放射性核種の検出 °団野皓文・鎌田政明・西山安夫 (鹿児島大農・理)
- 2 A 06 イオンクロマトグラフの火山化学への応用、第1報、火山灰可溶成分の迅速分析 及川紀久雄・°斎藤浩子・鎌田政明 (新潟薬大・鹿児島大理)
- 2 A 07 別府—九重—阿蘇—熊本—雲仙地域における温泉水の溶存化学組成の特徴と貯留岩との関係 阿部喜久男・°茂野 博・渡辺修一・千葉 仁 (地調・東工大)
- (10:45~11:30) 座長 古賀昭人
- 2 A 08 有珠山の活動による温泉水、地下水の主要化学成分の変動 安孫子 勤 (室蘭工大)
- 2 A 09 有珠山周辺の温泉水の起源 鶴見 実 (東工大総合理工)
- 2 A 10 黒石温泉群の化学成分と地質 佐藤幸二 (中央温研)
- (11:30~12:00) 座長 佐藤幸二
- 2 A 11 “温泉水中の重金属の挙動について” °高橋章司・入江敏勝 (山形大理)
- 2 A 12 鉄質沈殿物中のマンガンの挙動—伊香保温泉を例として— °鈴木励子・酒井幸子 (東北大教養・群馬県衛研)

日本地球化学会総会 (13:00~14:00 A会場)

一般講演 (14:00~15:00) 座長 日下部 実

- 2 A 13 韓国における温泉水の同位体地球化学的研究 °金 奎漢・中井信之 (名大理)
- 2 A 14 山形県蔵王強酸性泉の安定同位体について °清棲保弘・倉橋 誠 (名大理)
- 2 A 15 秋田県玉川温泉の酸素、硫酸、硫黄同位体組成の経年変化 °倉橋 誠・中井信之・岩崎岩次・吉池雄蔵 (名大理・東邦大理)
- 2 A 16 Manganite— H_2O 間の重水素濃度分配係数の実験的研究 °堤 真・針谷 宥 (岡山大温研・北大理)
- (15:00~16:00) 座長 酒井 均
- 2 A 17 八幡平大沼地熱地帯における変質鉱物の安定同位体比について °山本典保・中井信之 (名大理)
- 2 A 18 松川地熱地帯における硫黄化合物の硫黄同位体組成 清棲保弘 (名大理)
- 2 A 19 グリーンタフ中における熱水反応の化学モデル 水上正勝 (函館工専)
- 2 A 20 熱水における鉛の錯形成度 °高野稔一郎・浅野靖宏・綿拔邦彦 (東大教養)
- (16:00~16:45) 座長 中井信之
- 2 A 21 熱水溶液の水素フュガシティーの直接測定とその応用、I °酒井 均・木島宣明 (岡山大温研)
- 2 A 22 熱水溶液の水素フュガシティーの直接測定とその応用、II °木島宣明・酒井 均 (岡山大温研)
- 2 A 23 熱水条件下におけるシリケート中の Fe^{2+} による硫酸の還元 °竹中照雄・酒井 均・木島宣明 (岡山大温研)

B会場

- 一般講演 (9:00~9:30) 座長 平木敏三
- 2 B 01 海水中におけるクロムの酸化還元反応とその速度 °大崎 進・大崎知恵・高島良正 (九大理・福岡工大)
- 2 B 02 海水中における懸濁質中のMn, Cr 量と溶存Cr 量の関係 藤永太一郎・桑本 融・°中山英一郎・所 裕之・杉山雅人 (京大理)
- (9:30~10:15) 座長 角皆静男
- 2 B 03 海水中における微量金属元素の存在状態について、その3. マンガン °豊田恵聖・森 洋・岡部史郎 (東海大海洋)
- 2 B 04 大西洋セジメント・トラップ実験で得られた試料の化学組成 °野崎義行・PG. Brewer. D. W. Spencer. A. Fleer (ウッズホール海洋研・東大海洋研)
- 2 B 05 大西洋セジメント・トラップ実験で得られた試料の放射性核種 °野崎義行・PG. Brewer. D. W. Spencer. A. Fleer (ウッズホール海洋研・東大海洋研)

(10:15~11:15) 座長 杉浦吉雄

2 B06 プラクトン増殖期に深層水中を沈降する粒子の化学組成 — 尻屋崎沖におけるセディメントトラップ実験結果 — °乗木新一郎・石森則人・角皆静男 (北大水産)

2 B07 外洋においてみつけられた深さとともに単調増大する粒子束の Settling model による説明 角皆静男 (北大水産)

2 B08 重金属の存在状態にみられるマンガン団塊の海水接触面と堆積物接触面の差違 角皆静男・°中西圭太 (北大水産)

2 B09 ベーリング海および北部北太平洋堆積物における Pb の移動と放射性 ^{210}Pb について °山田正俊・角皆静男 (北大水産)

(11:15~12:00) 座長 中谷 周

2 B10 深海底堆積物中のガラス質スフェールの起源 °長沢 宏・山越和雄 (学習院大理・東大宇宙線研)

2 B11 海洋生物の微量元素 (1) コンブについて °小山陸夫・大石圭一・原田武夫 (京大原子炉・北大水産)

2 B12 褐そう類の放射化分析 °河島達郎・山本俊夫・甲田善生 (名工試・京教大)

〔課題講演〕〔古文化財の化学〕

コンビーナー 馬淵久夫

(14:00~14:40) 座長 馬淵久夫

2 B13 In Situ ケイ光 X 線分析とその適用 °阪上正信・圓尾好宏・棚原 朗 (金沢大理・LLRL)

2 B14 ビテクアントロプスとテクタイト °島 誠・岡田昭彦・矢吹貞代 (理研)

(14:40~15:40) 座長 三辻利一

2 B15 イラク・アルクル遺跡出土土器の焼成温度 °小坂丈予 (東工大工)

2 B16 黒曜石産地の推定 — 佐世保市泉福寺洞穴遺跡を中心として °大沢真澄・二宮修治 (東学大教育)

2 B17 放射化分析による猿投・常滑・渥美石窯産出陶器の分類 °河島達郎・松野外男 (名工試)

(15:40~16:40) 座長 大沢真澄

2 B18 Rb および Sr からみた須恵器の分類 三辻利一 (奈良教育大)

2 B19 銅鐸の組成とその原料について °山崎一雄・室住正世・中村精次・渡会素彦・大江純司 (名大・室蘭工大)

2 B20 銅鏡の鉛同位体比 °馬淵久夫・

平尾良光・西田守夫 (東京国立文化財研・青学院大理工)

— 総合討論 —

C 会場

一般講演 (9:00~10:00) 座長 島 誠

2 C01 最近18年間の福岡産米の ^{14}C 濃度 °岡井富雄・高島良正 (九大理)

2 C02 飛驒金山の珪質頁岩の同位体年代 °柴田 賢・水谷伸治郎 (地調・名大)

2 C03 水素同位体比からみたハンガリー Gant 産ボーキサイトの生成環境 °村上通宣・松尾禎士・Kiss Janos・Cornides Istvan (東工大・Otvos Rolant Univ. Hungary・Mining Inst.)

2 C04 尿素水溶液の構造に関する水素および酸素同位体比による知見 °垣内正久・松尾禎士 (東工大)

(10:00~11:00) 座長 高島良正

2 C05 U 系列核種による非破壊 γ 測定年代学的应用 — サンゴ、化石骨への適用 °桜井次郎・小村和久・小西健二・阪上正信 (金沢大理)

2 C06 固体中の α 反跳をうけた ^{234}Th の行動 °木越邦彦・秋光正子 (学習院大理)

2 C07 硫酸塩鉱物 — 溶存硫酸 — 水系の同位体交換反応機構 °千葉 仁・酒井 均・木島宣明・日下部 実 (東工大・岡山大学・富山大理)

2 C08 黒鉱硫酸塩鉱物及び東太平洋海膨 21°N 産硬石膏の酸素及び硫黄同位体比 °日下部 実・千葉 仁 (富山大理・東工大)

(11:00~12:00) 座長 南部雅男

2 C09 森林および耕地土壌の窒素同位体組成 °和田英太郎・柴田勘子 (三菱化成生命研)

2 C10 環境指標としての植物中の硫黄の同位体比 °辻 康・中井信之 (名大理)

2 C11 炭素同位体比の観点から見た水田生態系の特徴 °中村孝一・和田英太郎・高井康雄 (東大農・三菱生命研)

2 C12 土壌中の炭酸ガスの存在状態 °鈴木信子・白木眞理・木越邦彦 (学習院大理)

(14:00~14:30) 座長 水谷義彦

2 C13 植物の光合成に用いられる炭素の起源(その2) °鈴木信子・白木眞理・木越邦彦 (学習院大理)

2 C14 Mn-nodule 中の ^{10}Be , Io/Th の濃度分布 °井上照夫・田中重男・黄 瑞耀・白井 朗 (東大核研・東大工)

(14:30~15:00) 座長 和田英太郎

2 C15 初期堆積過程における $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ の変化 南川雅男 (三菱生命研)

2 C16 炭素の安定同位体組成からみた三河湾水系における有機物の挙動 °佐野方晶・中井信之 (名大理)

(15:00~15:15) 座長 西川泰治

2 C17 居住システムにおける物質収支の研究 半谷高久・°大竹千代子・落合正宏・柏木祐一 (都立大理・都公害研)

D 会場

一般講演 (9:00~10:00) 座長 西川泰治

2 D01 ネパール国カトマンズ盆地の天然ガスとその根源岩について °永田松三・本島公司・名取博夫・滝沢文教 (地調)

2 D02 堆積物中の極性脂質成分の解析 佐藤 稔・°福島和夫・河村公隆 (都立大理)

2 D03 真空熱分解法による腐植物質の解析II、非炭化水素成分 福島和夫 (都立大理)

2 D04 堆積物におけるクロロフィル物質の初期続成的変化 °半田暢彦・秦 健吾・大田啓一 (名大水圏研)

(10:00~11:00) 座長 石渡良志

2 D05 北潟湖の湖底堆積物柱状試料のフォールアウト核種の深度分布 °小村和久・圓尾好宏・棚原 朗・阪上正信 (金沢大理)

2 D06 海洋堆積物中の腐植物質の分布 °西川泰治・平木啓三・松田庄蔵・重松恒信 (近畿大理工・教養)

2 D07 日本海および太平洋の海底泥質堆積物の化学的対比 °木下 貴・杉崎隆一 (名大理)

2 D08 河口沈殿物などの重金属についての分別溶解法の比較 伊藤和男 (名古屋市公害研)

(11:00~12:00) 座長 松本英二

2 D09 日本海堆積物の古堆積環境についての一考察 (特に硫酸還元との相違から) °石塚明男・森 忍・藤岡換太郎 (東大海洋研・名大理)

2 D10 沿岸堆積物中の金属元素について 合田四郎・°山崎秀夫 (近畿大理工)

2 D11 ビーチサンドの地球化学的研究 (第1報) °田中信幸・半田暢彦 (名大水圏研)

°三辻利一・岸山藤彦・桜田松次郎・圓尾好宏 (奈良教育大・金沢大理)

2 D12 洞海湾底質中に含まれる水銀の存在形態について °立石才子・橋本昭雄・山上悦子 (北九州市環境衛研)

(14:00~15:00) 座長 小椋和子

2 D13 地球古環境変遷の地球化学的追究 — 汽水湖堆積物の $\delta^{13}\text{C}$, C/N 比 — °中井信之・金 奎漢・藤沢 寛 (名大理)

2 D14 瀬戸内海底質のフミン酸、フルボ酸態重金属元素の状態分析 °平田静子・山本勇麓 (中國工試・広島大理)

2 D15 日本列島の太平洋岸堆積物の化学組成 杉崎隆一 (名大理)

2 D16 泥炭土壌中の P-クマル酸、フェルラ酸、P-ヒドロキシ安息香酸およびバニリン酸の存在形態分布 片瀬隆雄 (神奈川県衛生短大)

(15:00~16:00) 座長 北野 康

2 D17 霞ヶ浦高浜入における間隙水組成変動からみたリンの可溶化 °河合崇欣・大槻 晃・相崎守弘・西川雅高 (国立公害研)

2 D18 貯水池における重金属元素、リン、炭素および窒素の堆積 坂田昌弘 (電力中研)

2 D19 淡水域堆積物内における鉄およびマンガンの存在状態 坂田昌弘 (電力中研)

2 D20 分別溶解法による大阪湾の柱状堆積物中の構成成分への重金属元素の分配 北野 康・°藤吉亮子 (名大水圏研)

(16:00~17:00) 座長 半谷高久

2 D21 瀬戸内海における堆積と底質汚染 °松本英二・横田節哉 (地調)

2 D22 鹿児島湾北部海底質中の重金属含有量 (続) °坂本隼雄・鎌田政明 (鹿児島大理)

2 D23 日本海溝柱上堆積物に含まれる有機物 寺島美南子 (地調)

2 D24 堆積物におけるアミノ酸のラセミ化反応 (V) °田中信幸・半田暢彦 (名大水圏研)

第3日 10月8日 (水)

A 会場

〔課題講演〕〔炭酸塩の地球化学〕

コンビーナー 北野 康

(10:00~11:00) 座長 北野 康

- 3 A 01 炭酸カルシウム — 水溶液間での希土類元素の分配実験 °寺門靖高・増田彰正 (神戸大教養・理)
- 3 A 02 生物が形成する炭酸カルシウムと石灰岩中の希土類元素 °池内嘉宏・川上 紀・増田彰正 (日本分析センター・神戸大理)
- 3 A 03 アラレ石と水溶液との間のストロンチウムの分配 一國雅巳 (東工大総合理工)
- (11:00~12:00) 座長 一國雅巳
- 3 A 04 軟体動物の貝殻形成に伴う微量成分 (Cu, Zn, Cd, Fe, Mn) の分配 北野 康・°笠井加一郎 (名大水圏研)
- 3 A 05 沖縄県南大東島炭酸塩岩のフッ素含量 赤岩英夫・°相沢省一 (群馬大工)
- 3 A 06 炭酸塩堆積物中の硫酸イオンの挙動 高野穆一郎 (東大教養)
- 〔課題講演(続)〕
(13:00~14:00) 座長 平良初男
- 3 A 07 PO_4^{3-} の方解石への分配と Mg 分配係数におよぼす効果 °石川正道・澤岡 昭・一國雅巳 (東工大総合理工・東工大工材研)
- 3 A 08 炭酸カルシウム結晶の生成と変質について 北野 康・金森暢子・°吉岡小夜子 (名大水圏研・愛教大)
- 3 A 09 炭酸カルシウムの晶出過程における Mg, Cu イオンの効果 大森 保 (琉球大理)
- (14:00~14:40) 座長 兼島 清
- 3 A 10 ゲル中における炭酸カルシウムの生成状態 神田英利・°磯部敏幸・樽谷俊和 (九大理)
- 3 A 11 生物性炭酸カルシウム殻の構造と化学組成 金森 悟・金森暢子・°北野 康 (名大水圏研)
- (14:40~15:40) 座長 金森 悟
- 3 A 12 琉球諸島に産する各種石灰岩の比較 °兼島 清・平良初男・森下智子・高江洲 瑩 (琉球大理・双葉学園)
- 3 A 13 ホウ素およびリチウムによる古環境の推定 — イランの古生界 — 中生界境界付近の石灰岩への適用 °稲積章生・坂東祐司 (香川大教育)
- 3 A 14 南、北大東島産ドロマイト鉱石中の U および Th とその同位体 °平良初男・喜納栄一 (琉球大理)
- 総合討論 —

B会場

- 一般講演 (10:00~11:00) 座長 小沢竹二郎
- 3 B 01 豊肥地区における大規模深部地熱発電所環境保全実証調査 雨谷正方 (電源開発)
- 3 B 02 阿蘇湯の谷蒸気井からのサソライトの噴出 °古賀昭人・野田徹郎 (九大温研)
- 3 B 03 熱水中のコロイドの超音波による生長のパターン 植村道夫・°西田 純 (日本重化学中研)
- 3 B 04 講演中止
- (11:00~11:30) 座長 安孫子 勤
- 3 B 05 大兵発電井熱水中のケイ酸の挙動 °下野次男・島田寛一・横山拓史・樽谷俊和 (九大理)
- 3 B 06 アルミニウムによるケイ酸の沈殿 °横山拓史・樽谷俊和 (九大理)
- (11:30~11:45) 座長 鎌田政明
- 3 B 07 大陸生成移動説・吉岡亀太

〔課題講演〕〔惑星化学 — 惑星の集積と初期過程の化学〕

- コンビーナー 長沢 宏・小沼直樹
- (13:00~14:00) 座長 中村 昇
- 3 B 08 トリプルコレクターによる ^{16}O , ^{17}O , ^{18}O の測定とその地球化学的応用 松久幸敬 (地調)
- 3 B 09 炭素質コンドライト (C, C₁) の Xe 同位体 坂本 浩 (金沢大理)
- 3 B 10 南極隕石中の宇宙線生成 K-40 °仁藤 修・本田雅健・今村峯雄 (東大物性研・核研)
- (14:00~15:00) 座長 福岡孝昭
- 3 B 11 世界最古の落下目撃いん石「直方」 °島 正子・村山定男・矢吹英雄 (科学博物館・理研)
- 3 B 12 L-コンドライト母天体上におけるインパクト変成年代 — Sm-Nd 法による検討 — 中村 昇 (神戸大理)
- 3 B 13 Khohar 隕石 (L 3) セリウム異常について °中村 昇・増田彰正 (神戸大理)
- (15:00~15:40) 座長 小沼直樹
- 3 B 14 Allan Hills No.5 隕石 (eucrite) の年代、化学組成、鉱物学的特徴 °中村 昇・増田彰正・延谷宏治・床次正安・田崎耕一 (神戸大理・阪大産研・岡山大温研)
- 3 B 15 エコンドライト ALHA 77302 隕石の母天体(1)

— 岩石学鉱物学的考察 —

- °石井輝秋・武田 弘・福岡孝昭 (東大海洋研・理・学習院大理)
- (15:40~16:20) 座長 長沢 宏
- 3 B 16 エコンドライト ALHA 77302 隕石の母天体(2) — 化学組成 — °福岡孝昭・中村 昇・石井輝秋・武田 弘 (学習院大理・神戸大理・東大海洋研・理)
- 3 B 17 地球における水の起源 松尾禎士 (東工大理)
- 総合討論 —

C会場

- 〔課題講演〕〔地殻化学 — とくに地震予知に関連した〕
コンビーナー 脇田 宏・杉崎隆一
- (10:00~10:40) 座長 吉岡竜馬
- 3 C 01 東海地方東部地域における地震予知に関する地下水テレメータ観測について °東野徳夫・加藤 完・池田喜代治・田口雄作・高橋 誠・佃 栄吉・杉山雄一 (地調)
- 3 C 02 地震予知に関する地下水中のラドン観測について 池田喜代治 (地調)
- (10:40~11:20) 座長 脇田 宏
- 3 C 03 複数点の観測による地球化学的地震予知 杉崎隆一 (名大理)
- 3 C 04 地下水中に溶存する元素量の経時変動による地震予知の可能性 °谷崎良之・山崎正夫・永塚澄子 (都アイソトープ研)
- (11:20~12:00) 座長 杉崎隆一
- 3 C 05 山崎断層、塩田温泉の化学組成と地震 吉岡竜馬 (京大防災研)
- 3 C 06 伊豆地方における天然水の水質からみた水 — 岩石相互作用 — °中村誠佑・北野 康 (宮崎大工・名大水圏研)

〔課題講演(続)〕

- (13:00~13:40) 座長 東野徳夫
- 3 C 07 地殻化学と希ガス同位体分析 高岡宣雄 (山形大理)
- 3 C 08 地殻歪みと気体放出量変化について °中村裕二・脇田 宏・佐野有司・富永 健 (東大理)

(13:40~14:20)

座長 池田喜代治

- 3 C 09 岩石破壊による水素の発生 °北 逸郎・松尾禎士・中村裕二・脇田 宏 (東工大理・東大理)
- 3 C 10 断層粘土中の鉛同位体比 °杉野和彦・増田彰正・杉崎隆一 (神戸大理・名大理)
- 総合討論 —

D会場

- 一般講演 (10:00~11:00) 座長 立川 涼
- 3 D 01 藻類起源リビッドの水の中における分解速度 °小椋和子・高曾弘子 (都立大理)
- 3 D 02 堆積物におけるペリレンおよびペリレンキノンの分布 °石渡良志・間宮利夫 (都立大理)
- 3 D 03 堆積高分子堆積物による有機物のとりこみ現象Ⅲ. 脂肪酸について °松下景太・山本修一・福島和夫・石渡良志 (都立大理)
- 3 D 04 堆積有機物の熱変化実験 (3) — 炭化水素の発生機構について — °塩谷 真・河村公隆・石渡良志 (都立大理)
- (11:00~11:45) 座長 大西富雄
- 3 D 05 水圏における種々の物質の行動に与える粘土鉱物およびフミン質の役割: II. 堆積移行過程における微細粒子と脂肪酸の相互作用 °岩田晴夫・小椋和子 (都立大理)
- 3 D 06 水圏における種々の物質の行動に与える粘土鉱物およびフミン質の役割: III. 粒度分画した琵琶湖堆積物中のステロールの分布 °内藤康司・小椋和子 (都立大理)
- 3 D 07 堆積高分子有機物 (Geopolymer) の形成過程: I. アミノ酸の役割について °山本修一・石渡良志 (都立大理)

〔特別講演〕(13:00~13:40) 座長 中根猛彦 〔生物からみた環境〕

- 柿沼好子 (鹿児島大理)
- 〔課題講演〕〔天然水中の微量有機態金属元素の生物地球化学〕
コンビーナー 不破敬一郎
- (13:45~14:25) 座長 杉村行男
- 3 D 08 天然水の金属錯化容量 °西村雅吉・小垂朋二・片岡郁夫・伝法高子 (北大水産)

- 3 D09 海水中の微量有機態重金属元素の状態分析
 °平田静子・山本勇麗(中国工試・広島大理)
 (14:25~15:05) 座長 原口紘彦
- 3 D10 海洋における溶存有機金属化合物の存在量と分布
 °杉村行男・鈴木 款(気象研)
- 3 D11 海洋における金属元素の分布におよぼす溶存有機物の役割
 °廣瀬勝己・鈴木 款・杉村行男(気象研)
 (15:05~15:45) 座長 西村雅吉
- 3 D12 海洋における溶存有機形金属化合物の分子量(第2報) °鈴木 款・杉村行男・三宅泰雄(気象研・地化協)
- 3 D13 海洋におけるセレンの循環
 °鈴木 款・三宅泰雄・猿橋勝子・杉村行男(気象研・地化協)
 (15:45~16:25) 座長 鈴木 款
- 3 D14 天然水中の溶存金属酵素の存在とその意義
 °原口紘彦・小林憲正・岩瀬公一・藤原祺多夫・不破敬一郎(東大理)
- 3 D15 霞ヶ浦における alkaline phosphatase 活性(第1報) °岩
 °岩瀬公一・小林憲正・上田弘孝・田尾博明・藤原祺多夫・原口紘彦・大槻 晃・不破敬一郎(東大理・国立公害研)
 — 総合討論 —

講演要旨集 当日価 3,300 円(要旨集の送附のみも受付ます)

懇親会 10月7日(火)18時から、林田ホテル(電話)(0992)24-4111)にて、
 会費 4,000 円(学生 2,000 円)

訂正: 本年会会告(本ニュース No. 89 に掲載)の〔交通〕欄の市営バス鶴ヶ崎行(10番線)は鴨池港行(10番線)に変更になりました。

新旧合同評議員会報告

とき: 1979年12月8日(土)

ところ: 赤門学士会館

出席者: 半谷会長、安藤、石渡、一國、岡部、小椋、金森、鎌田、木越、酒井、佐藤、柴田、樽谷、長沢、本田、増田、松尾、松本、馬淵、綿坂各評議員

報告

1. 日本学術会議関係

学術会議の中に高レベル放射性廃棄物小委員会が設置されることになった。

地学関係3研究所のうち1つの設立をはかる検討会が予定されている。

2. 各委員会関係

庶務: 学会事務センターとの事務契約について説明があった。

財政: 54年度学術定期刊行物助成の書類を提出した。海外に配布されている Geochem. J. は 275 部である。

編集: Geochem. J. 13巻5号は1月、6号は3月に発行の予定である。

ニュース: No.88は“地球化学”にとじこみとして発行の予定である。内容は役員選挙結果、年会総会報告など。

行事: 12月例会(小沼、長沢両氏の講演)の出席者は30名であった。

議事

1. 入退会

入会: 正会員 6 名、退会: 正会員 1 名、賛助会員 2 口(この結果、12月4日現在の会員数は正会員 805 名、名誉会員 4 名、賛助会員 15 名、計 824 名となった)。

2. 2年間会費滞納者の取扱いについて

滞納者に再度連絡することにした。

3. 1980年度年会

鎌田評議員から年会の実施予定について説明があった。

4. 名誉会員の推薦

半谷会長、木越評議員から三宅泰雄氏を名誉会員に推薦したい旨提案があり、旧評議員で投票した結果、次会の総会で提案することが可決された。

5. 2月例会

木越新会長が会長講演を行なうことになった。

6. 学会事務センターとの1980年度事務契約

業務委託費の値上げがあった。これを含めて新契約を承認した。

7. Geochem. J. の寄贈と交換

交換2件(ユーゴスラビア、中国科学院)、寄贈2件(イギリス、Bioscience)を承認した。

引きつづき、新評議員懇談会が開かれ、各種委員会の分担を仮決定した。

編集者 佐藤和郎

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル(4F) 日本学会

事務センター内

電話 東京 03(815)1903

振込先銀行 三井銀行上野広小路支店

普通預金 口座番号 920-833

日本地球化学会ニュース

No. 91

1981. II. 1

1980年度年会を終って

鎌田 政明

1980年度年会は10月6, 7, 8日の3日間、鹿児島大学教養部で開催され、6つの課題講演、一般講演あわせて220の講演があり、盛会裡に終わった。特別講演の中一つは演者の急用で中止になったが、懇親会も240名の参加という盛況で、お世話をした1人としてはっとしている。

準備はほぼ1年前からはじめたが、これは準備する事務局の少人数(3人)を考えてのことで、私がとくに気が早かったわけではない。前回の事務局(東工大松尾教授ほか)からのノウハウの伝受を徹底的にいただいたことも役立ったと思う。

会場の教養部の設備、機器などの充実にも大変助けられ、また関係諸先生の御盡力のたまものであった。

要旨の印刷部数567部、少し足りなかった。外国(中国ほか)からの予約もあるので600~660部は必要だったと思う。と同時に、積極的なPRも会の存在を一般に知らしめることであり、努力したつもりである。要旨集は初日の午前中ですべて売り切れ、PRして買ってもらっていたものを一部たのみ込んで回収した一幕もあった。

要旨の集りはいつものことのようにであるが仲々期日通りには行かない。自分自身にも覚えがあるが、一回当事者になってみるとそれがいかに迷惑をかけるかはいやというほど味わうことになった。

ともあれ年会の趣旨は、できるだけ多くの人が集り、熱心に議論をたたかわせ、今日の問題についてより深く認識を深めあうことにつきて思う。

遠路はるばる御来鹿いただいた会員諸氏がそれぞれの専門でこの目的を十分に達せられたかどうか、自信はない。今はただ何とか終わったというささやかな満足感にひたっているだけである。

事務局の力の至らなかったため、いろいろ御不便もかけたと思う。次回の、さらにはまたその後のよりよい年会のために私どものささやかな経験が生かされ

ばと念じている。

最後に、年会の主役であった会員諸氏の御協力に心から御礼申しあげる。

お知らせ

1981年度日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会 共催 日本化学会

期日 1981年10月10日(土)~10月12日(月)

会場 東海大学海洋学部(静岡県清水市折戸 1,000)

内容 課題講演、一般講演および特別講演 課題講演は「金属元素の溶存状態」「堆積環境と堆積物の地球化学」「地熱エネルギーと地球化学」などが予定されています。詳細は次号の地球化学会ニュースを御覧下さい。

講演申込締切 6月27日(土)

講演要旨提出締切 8月15日(土) 申込受付次第、オフセット用原稿用紙をお送り致します。

懇親会 10月11日(日) 18時から、三保文化ランドにて、
 会費 4,000 円(学生 2,000 円)

参加、要旨集および懇親会申込締切 9月5日(土)

以上の申込みは必ず所定の申込用紙を用いて下さい。これらの用紙は本ニュース(次号)に添付予定のものを利用するか、または下記あて御請求下さい。参加費は不用です。要旨集代金 3,000 円(学生 2,000 円)(郵送料を含む)、懇親会費は上記申込期日までに、銀行振込(駿河銀行清水港支店、普通: 603648、日本地球化学会年会)または郵便振替(東京 9-155798、東海大学海洋学部、岡部史郎)にて御送金下さい。要旨集代

地球化学会会員名簿の改訂

現在、庶務では会員名簿改定の準備を進めています。変更の有無にかかわらず、会員各位は同封のはがきに必要事項をご記入の上、遅くとも3月末までに庶務あてご返送下さい。新しい名簿は6月末には刊行の予定です。ご協力をお願い致します。